

平成9年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者名簿
(五十音順)

〔 個 人 〕

木場 忠 (鹿児島県肝属郡田代町)
島 袋 正榮 (沖縄県中頭郡読谷村)
田口 秀和 (岐阜県益田郡下呂町)
千葉 照雄 (岩手県東磐井郡千厩町)

〔 団 体 〕

渥美町和地みどりの少年団 (愛知県渥美郡渥美町)
王子製紙株式会社 江別工場 (北海道江別市)
大辻公園ボランティアの会 (大分県大野郡三重町)
株式会社林 原生物科学研究所 吉備製薬工場 (岡山県上房郡賀陽町)
寒河江市元町区 (山形県寒河江市)
茶郷川環境整備協議会 (新潟県小千谷市)
広川ダム周辺を美しくする会 (和歌山県有田郡広川町)
吉田町自治会 (奈良県橿原市)

〔 学 校 〕

市貝町立市貝中学校緑の少年団 (栃木県芳賀郡市貝町)
秦野市立北小学校 (神奈川県秦野市)
氷見市立一剣小学校 (富山県氷見市)
宮城県南郷高等学校 (宮城県遠田郡南郷町)
山田町立山田小学校 (宮城県北諸郡山田町)

〔 地方公共団体 〕

足和田村 (山梨県南都留郡足和田村)
木祖村 (長野県木曽郡木祖村)
城川町 (愛媛県東宇和郡城川町)
関町 (三重県鈴鹿郡関町)
水窪町 (静岡県磐田郡水窪町)
物部村 (高知県香美郡物部村)
山崎町 (兵庫県宍粟郡山崎町)

[個人]

氏 名	こ ば ただし 木 場 忠
住 所	鹿児島県肝属郡田代町
功績の概要	同氏は、41年間の教職時代、赴任した県内各地の学校で「愛林クラブ」や「学校林の創設」等に取り組み、児童等の緑化意識と愛林思想の高揚に貢献する一方、私財を投じて森林を買い増し、“一本切ったら100本植える”をモットーに県土緑化に努め、現在では自己所有林が35haまでに達している。 平成2年からは、自己所有のクヌギ林0.6haを、県内外の児童生徒等に、森林学習の場として親しんでもらうことを目的として、「少年の森・こんちゅう村」と名付けて一般に開放し、さらに、平成3年からは、自己所有の複層林0.78haも「老春の森」と名付けて一般に開放し、多様な森林づくりの見本とするとともに、森林内の湧水、手作り小屋と相まって優雅な森林生活を示して、森林のすばらしさを訪れる人々に普及し、好評を得ている。 このほか、一年を通じ、県の緑化活動推進員や森林インストラクターとして、緑化・美化活動や森林体験学習活動等を通じ、地域の子供たち等に自然と触れ合う楽しさを教えながら、緑化意識と愛林思想の高揚に努めている。

[個人]

氏 名	しまぶくろ せいえい 島 袋 正 榮
住 所	沖縄県中頭郡読谷村
功績の概要	同氏は、昭和63年3月に教員を退職した当時から地域への恩返しの気持ちを込めて、自宅前の児童公園（3,000㎡）内と総合公園（座喜味城跡公園）に接する村道沿いの花の手入れ、除草、清掃を毎日3時間かけて行っている。 特に、道路沿いにおいては、両側150mをコスモス、ノボタン、マリーゴールド、ヒマワリ、百日草等の四季折々の花々で飾り、訪れる人々の目を楽しませている。これら植栽された花々は、いずれも種子から育てられたもので、これまでに延べ30種類、数万本に達している。 以前は、道路沿いに、空き缶、タバコの吸い殻等のゴミの投げ捨てが多かったが、同氏が花の手入れ、除草、清掃を行うようになってからはみられなくなっている。 このような同氏の地道な活動により、地域の子供や住民に間に、自然環境の保護、美化活動に対しての気運が高まり、地域の美観の向上に大きな効果を上げている。

[個人]

氏 名	た ぐち ひで かず 田 口 秀 和
住 所	岐阜県益田郡下呂町
功績の概要	同氏は、昭和43年から28年間の長きにわたり、通勤、通学道路として地域の生活基盤を支える地区内唯一の幹線道路である主要地方道下呂白川線の沿道約8kmの道路緑化を1日も休まず行っている。 具体的には、1年3回ほど、パンジー、マリーゴールド、ベゴニア、ハボタン等の季節に合った花々をそれぞれ100本から200本程度植え替えるほか、毎日の草取り、施肥等の手入れを行っている。 また、沿道のハナミズキ、サルスベリ等の街路樹約50本について、剪定作業を毎年定期的に行うとともに、側溝の落葉の清掃等も行なうなど、その活動は道路の美化はもとより、交通安全にも大きく貢献しており、下呂白川線は安全で快適な道路として、利用者の好評を得ている。 同氏の長年にわたるこれらの奉仕活動は、幾度となく町長表彰を受けるなど地域から高く評価されており、他の模範として緑化意識の高揚に多大の貢献をしている。

[個人]

氏 名	ちば てる お 千葉 照 雄
住 所	岩手県東磐井郡千厩町
功績の概要	同氏は、夫婦で農業を営んでおり、昭和45年から自宅庭や周辺の道路沿いを中心に、年間を通じて丹精込めた花壇づくりを行っている。春はスイセン、パンジー、チュウリップ、シバザクラ等、夏はサルビア、インパチェンス、マリーゴールド、ベコニア等四季折々の風情を見せる花壇は見事で、県のコンクールなどでも毎年上位に入賞しており、周辺の市町村や県内外から多数の見学者が訪れるなど、地域社会活性化のけん引役として活躍している。 また、花いっぱい運動の輪が地域へ広がることを願い、毎年10万本の苗を育て、そのほとんどを地区の小学校、子供会、町内の自治会等へ提供しており、この献身的な取組は地域住民の緑化意識の高揚に大きく貢献している。 このような、同氏の27年間にわたる地道な努力は、地域、さらには町の花いっぱい運動へ大きな波及効果をもたらし、町民参加の地域緑化、地域活性化へとつながっており、その継続性からみても功績は大きい。

[団 体]

名 称	あつみちょうわじ しょうねんだん 渥美町和地みどりの少年団
所 在 地	愛知県渥美郡渥美町
代 表 者	校 長 鈴木 徹
功 績 の 概 要	同少年団は、P T Aの協力を得ながら、学校林「裏山」において、地元住民の育樹運動の支援や育林作業に取り組むとともに、パトロール活動を行って、四季折々の様子を全校生徒に伝えているほか、学校林への樹名板の掲示、落ち葉を使った「木の葉の芸術」会の開催、「卒業記念樹の森」での記念植樹等にも取り組み、全校児童を中心として地域住民の森林愛護意識の高揚に努めている。 また、地域のシンボル樹木の維持管理、町内や渥美半島で希少となっている草花の保護・育成・種子の配布等郷土の自然保護活動を通じて、地域住民の自然保護意識の高揚にも努めている。 さらに、花壇の世話、草花の苗の育成・配布等P T Aや子供会と協力して地域緑化を推進しているほか、2 a余りの学校農園の管理や運動場の芝生管理、梅林の管理等学校環境緑化にも努めている。 このほか、毎年、卒業記念に「裏山に来る鳥観察レリーフ」を作成するとともに、平成6年度の愛鳥モデル校指定後も巣箱の作成・設置や探鳥会等を実施し、野鳥保護精神の醸成にも努めている。

[団 体]

名 称	おおじせいしかぶしがいいしゃ えべつこうじょう 王子製紙株式会社 江別工場
所 在 地	北海道江別市
代 表 者	江別工場長 福田 昌孝
功績の概要	同工場は明治41年操業開始の製紙工場である。 泥炭土壌・豪雪地帯という悪条件を土壌改良、防雪対策により克服し、「美しい緑に囲まれた森の中の工場」を目指して緑化を推進している。工場敷地内にはプラタナス、エゾマツ、ツツジなど約18,000本の木々からなる美しい庭園風の緑地を整備するとともに、敷地周辺部には高木を植栽し、遮蔽緑地として工場周辺からの景観の向上に努めている。 また、地元小中学校の工場見学等に際して緑地を開放し、緑に親しむ機会を提供するとともに、工場敷地内の野球場テニスコート等を地域住民に無料開放しているほか、緑地を市民まつりのイベント会場に提供する等地域社会との融和を図っており、地域環境の向上に寄与している。 さらに、自治体や周辺企業等の要請により、緑化に関する視察受入れ、体験発表等を実施し、工場緑化の普及啓発に積極的に取り組んでおり、緑化に関する社会的な貢献も顕著である。

[団 体]

名 称	おおつじこうえん かい 大辻公園ボランティアの会
所 在 地	大分県大野郡三重町
代 表 者	代 表 伊藤 角馬
功績の概要	同会は、三重町が昭和63年に大辻山頂に大辻公園（1.5ha）を開設した際に、同公園内の歴史的な古墳群や雄大な展望を大勢の人に楽しんでもらおうと発足し、花づくりを行うようになった。 「花と緑、史跡と展望」をキャッチフレーズに県内随一の規模を目標として始まったアジサイの植栽は、当初は古墳周辺に500株ほどであったが、毎年植栽を続け、現在では園内だけでなく、そこに通じる町道の両側2kmにも及び、約7,000株の一大アジサイ園に成長している。これらのアジサイは、いずれも会員が挿し木をして育成したものであり、植付け後も年に15回ほど、剪定、施肥等の維持管理作業を継続的に行っている。 今では同公園で町をあげてのアジサイ鑑賞祭が開催されるまでになり、同会の活動は、テレビ、新聞等による報道や様々な賞の受賞、また会員が高齢者大学において講演を依頼されるなど、高い評価を受けている。

[団 体]

名 称	かぶしがいいしやはやしばらせいぶつかがくけんきゅうしょ きびせいやくこうじょう 株式会社林原生物科学研究所 吉備製薬工場
所 在 地	岡山県上房郡賀陽町
代 表 者	工場長 安藤 駿作
功績の概要	同工場は抗癌剤インターフェロン等の製造工場である。「自然と調和したヒューマニティあふれる環境づくり」のため、土壌改良や病虫害対策、寒冷対策を講じ緑化を推進しており、敷地に対する緑地面積の割合は62%と高い（全国工場平均14%）。 敷地周辺部に約5,000本のアカマツの自然樹林を残し、周辺環境との調和を図りつつ、建物周辺部には芝生とヤマツツジ、キンケイギク、ヤマザクラ等からなる庭園風の開放的な緑地を整備し、緑と四季折々の花が溢れる工場を創出している。特に、地元の賀陽町の花であるヤマツツジを多く植栽し、育成に努めており、5月頃には構内に植栽された数百本が美しい花を咲かせている。 また、「開かれた工場」を目指し、地元小中学校の工場見学等を積極的に受け入れているほか、各種学校行事にも緑地等を開放し、先端技術の紹介とともに緑と親しむ機会を提供する一方、地元の吉備高原都市「桜の園」緑化運動に参画しヤマザクラ約120本を植栽するなど、地域緑化の推進にも努めており、緑化に関する社会的な貢献も顕著である。

[団 体]

名 称	さがえしもとまちく 寒河江市元町区
所 在 地	山形県寒河江市
代 表 者	元町区長 渡邊 太造
功績の概要	同団体は、土地区画整理事業による道路整備完了と同時に「明るく住みよい町づくり」を目指して組織された。快適な生活環境の整備、なかでも花と緑があふれる環境は、その重要な要素を担うことから発足と同時に主要地方道天童寒河江線等幹線道路 9 km区間の街路樹のイチョウ（325本）の手入れや、年に 1 度の植樹枿へのマツバギク、シバザクラ（2,000株）の植え付け等の作業を行っている。 これらの活動により、当該地区は常に美しい緑と可憐な花々に彩られ、整然とした状態が保たれた道路や公園は、住民の生活環境に対する意識はもとより通行者の交通安全及び道路愛護思想の高揚に大きく貢献している。 また、これを模範として、寒河江市が平成 7 年策定の振興計画で「花と緑・せせらぎで彩る寒河江」を掲げ、市庁舎等の公共施設をフラワーポットで飾る一方、商店街等の民間団体へも吊り下げ型フラワーポット等の先進的で個性的な装飾を積極的に働きかけるようになる等、市の緑化活動の推進に対しても大きな影響を与えている。

[団 体]

名 称	ちゃごうかわかんきょうせいびきょうぎかい 茶郷川環境整備協議会
所 在 地	新潟県小千谷市
代 表 者	会 長 井口 四一郎
功績の概要	同会は、小千谷市街地の茶郷川沿いの6町内会、会員数2,600人から組織されており、茶郷川堤防上のフラワーボックスの設置、花の植え替え、除草、ゴミ拾い等を年間14回程度実施している。 当初は、美化活動が主であったが、平成2年からは緑化活動にも力を入れるようになり、現在ではマリーゴールド、サルビアが植栽されたフラワーボックスを約1,000個設置している。これらの花々は毎年植え替えをし、随時手入れを行っている。これに加え、平成8年には地区内にサクラの苗木を植栽し、長さ100mの桜つつみを設置した。将来的にはこの桜つつみを、300mまで延長する予定となっている。 このような活動により、茶郷川堤防沿いは四季を通じて潤いのある散歩道となり、6町内の住民にとどまらず、一般住民にも親しまれている。 また、協議会のモットーである「地域の美化・緑化は自分たちの手で」が広く地域住民に浸透しており、環境美化、緑化推進の活動に対しても多大の貢献をしている。

[団 体]

名 称	ひろがわ しゅうへん うつく かい 広川ダム周 辺を美しくする会
所 在 地	和歌山県有田郡広川町
代 表 者	会 長 田中 忠夫
功績の概要	同会は、昭和50年に広川ダムが完成したのを機に、地域住民及びダムを訪れる人々の憩いの場所としてダム周辺の美化を図り、もって地元に活力を与えることを目的に設立された。 ダムからの流れを絆として、上・下流部の人々が会員になり、現在では300人を越えている。 設立時に、このダム周辺を町内外の人々の憩いの場となる「桜の名所」とするために、500本のソメイヨシノを植樹し、それ以後毎年100本程度の桜を継続的に植樹している。 植樹と同時に年3回、桜木の下草刈り、施肥等を精力的に行い、現在では約2,500本もの桜並木が見事にできあがり、桜のシーズンになると県下有数の桜の名所となっている。 また、桜の時期にも人々が「花」を楽しめるよう3年前から100本前後の「ツツジ」の苗を桜の木の周辺に植栽している。 このように、ダム周辺の緑化の推進など美化意識の普及啓発等に精力的に取り組んでいる。

[団 体]

名 称	よしだちょうじちかい 吉田町自治会
所 在 地	奈良県橿原市
代 表 者	会 長 安田 好弘
功績の概要	同会は、昭和55年に吉田児童公園（737㎡）が開設されて以来、自治会活動の一環として月に1回のペースで園内の清掃を行っていたが、昭和59年からは地域の子供会、老人会、婦人会にも呼びかけ、共同で美化活動を行うようになった。 具体的には、4月、8月、12月の年に3回、樹木の剪定、草刈り、藤棚の手入れ等を年中行事として行うとともに、遊具のペンキ塗りや、公園周辺のゴミの収集等の作業も随時積極的に実施している。 これらの活動により、吉田児童公園は清掃が行き届き、藤棚等の施設がよく整っていると評判で、町内のみならず町外の住民からも憩いの場として広く利用されている。 平成6年度にみどりの愛護功労者建設大臣表彰を受賞した後は、自らの手で花壇の設置を行い、花いっぱい運動の輪の拡大に取り組むなど、従来にも増して精力的に緑化・美化活動を展開しており、同会の活動を模範に市内の他の公園でも同様の活動が盛んになりつつある。

[学 校]

名 称	いちかいちょうりついちかいちゅうがっこうみどり しょうねんだん 市 貝 町 立 市 貝 中 学 校 緑 の 少 年 団
所 在 地	栃木県芳賀郡市貝町
代 表 者	校 長 金田 公男
功 績 の 概 要	同少年団では、松くい虫被害を受けたアカマツ林を見事にヒノキ林に樹種転換し、林業関係者からも注目された、約6.2haの学校林「ふれあいの森」において、昭和59年度以来、毎年夏休みに地元の森林組合員等を指導者として迎え、PTAとともに森林保育作業を実践し、森林愛護精神の醸成に努めている。 また、昭和53年から始まって約1haの広葉樹林「ふるさと自然林」でシイタケ等の栽培、町が推進する「ウメの里づくり運動」の一環で昭和54年から取り組んでいる学校内のウメの木の保育管理、学校農園のお茶の木の保育管理等を通じ学校環境緑化に努めるとともに、それらを収穫して自ら食するほか、地域住民に配布・販売し、自然の恩恵に対する感謝の意識の普及啓発に努めている。 これらの活動を通じて生徒の緑化意識が高まり、平成7年には、「ふるさと自然林」内の落葉の回収・販売等、自分たちで汗して得た収益金を活用し、自らの発案によって、自然林内にユズの木を植樹し、学校環境緑化に取り組んでいる。

[学 校]

名 称	はだのしりつきたしょうがっこう 秦野市立北小学校
所 在 地	神奈川県秦野市
代 表 者	校 長 櫛田 稔
功績の概要	同校では、昭和59年に、地域住民の協力を得て、ヒノキ苗木の植樹・下刈り等の学校林活動を再開し、その後も活動地域を広げながら緑化活動に努めており、これらの活動を通じて、現在では、地域住民の緑化意識と実践力が養われ、水無川沿いの「しだれ桜の里」づくりといった地域住民による緑化運動が展開されるに至っている。 また、毎年、学校周辺の山からドングリ等の実を採取しては学校農園で育て、校庭の裏庭に移植し、学校環境緑化に努める一方、残りの苗木を各家庭に持ち帰って植え、地域の環境緑化にも努めている。 さらに、緑化等環境教育をテーマにした自由研究や下刈り活動前の「森林の役目」の学習、森林組合の協力による間伐材を活用した工作等、あらゆる機会をとらえては森林や自然への理解の醸成に取り組み、緑化意識の高揚に努めている。 このほか、昭和63年度及び平成元年度の愛鳥モデル校指定後、地域住民の協力を得ながら、野鳥観測小屋を建設するとともに、バードウォッチング等を実施し、野鳥保護精神の醸成にも努めている。

[学 校]

名 称	ひみしりつひとはねしょうがっこう 氷見市立一刎小学校
所 在 地	富山県氷見市
代 表 者	校 長 山崎 和子
功績の概要	同校は、昭和41年以来、花壇づくりに取り組み、平成元年、学校と父母が協力し、「花の広場・一刎公園」と名づけた現在の花壇を整備した。同校は極小規模校であるが、花壇のデザイン、植え込み、維持管理等を、児童が父母や地域の老人会などの協力を得ながら行い、毎年見事な花の広場をつくるとともに、花壇づくりを生活科や俳句づくりなどに活かした学習活動を行っている。 また、学校花壇を地域全体に開かれた公園にするため、花壇周辺に手作りのテーブルやベンチを設置しており、近くの保育園が利用するほか、地域の老人や子供たちの憩いの場となっている。加えて、年に一度、父母や老人会を加えた地域全体の昼食会を広場で開くなど、花を介したふれあい交流を続けており、学校花壇が地域のシンボルとなっている。 さらに、同校では、周辺地域の花づくり運動を広げようと、近くのバス停に花を植えたり、街路樹に名札をつけたり、種から育てた苗を希望者に配布するなどの活動を行っており、地域住民の緑化意識の高揚に貢献している。

[学 校]

名 称	みやぎけんなんごうこうとうがっこう 宮城県南郷高等学校
所 在 地	宮城県遠田郡南郷町
代 表 者	校 長 本田 繁夫
功績の概要	同校は、昭和23年から生徒と教員が一丸となって38haの山林の植林に努め、昭和25年にはその活動が評価され全日本学校植林コンクールに入賞した。以来、環境緑化活動に積極的に関わり、緑化関係のコンクールで数多くの表彰を受賞してきた。 具体的な活動としては、環境緑化委員会を中心に、生徒、教師、P T A、同窓会が連携を図りながら、花壇、芝生、庭園の造成や樹木の移転植栽等の緑化活動を行っている。造成した芝生は県下随一の規模を有し、この管理を授業での実習や清掃の時間等で行っている。 また、校内の花壇には毎年6千株の四季の花を植栽するとともに、校外用には毎年1万株の草花苗を出荷し、地域の緑化に寄与している。 さらに、世界的な森林面積の減少への警鐘として、木材に代わる紙の原料として1年草「ケナフ」の栽培を教育活動の中に取り入れており、紙作りの研究としてマスコミから高い評価を受けるなど、21世紀へ展開できる新しいスタイルの「地球を守る環境緑化の推進活動」として広く関心を集めている。

[学 校]

名 称	やまだちょうりつやまだしょうがっこう 山 田 町 立 山 田 小 学 校
所 在 地	宮崎県北諸県郡山田町
代 表 者	校 長 中尾 仁志
功 績 の 概 要	同校は、昭和48年に学校環境緑化推進校として県指定を受けて以来、緑化コンクールの入賞、緑の少年団の結成、緑化推進活動功労に対する県知事表彰の受賞など、継続的に環境緑化推進活動に取り組み、成果を上げている。 具体的な活動としては、様々な活動場面を設定し、児童の環境緑化に対する実践力の育成や意識の高揚を図るため、「緑の時間」を設定し全校児童による除草作業や花壇の手入れを行うほか、「創意の時間」を活用し草花の世話や学校周辺の清掃美化活動を行うなど、緑化活動を教育課程に位置付けている。 また、毎年定期的に校内の除草・剪定・花の世話をを行う親子奉仕作業を実施するなど、PTAとの連携を図りながら、積極的に環境緑化推進活動を展開している。 さらに腐葉土置き場を設置し、栽培活動に活用するほか、学級園・学校園の土の入替えを行うなど、学校における緑化環境の整備に取り組んでいる。

[地方公共団体]

名 称	あしわだむら 足和田村
所 在 地	山梨県南都留郡足和田村
代 表 者	村 長 加藤 幸正
功 績 の 概 要	同村は、豊かな自然環境を保持し、将来の世代に引き継いでいくため、「美しい自然に調和した豊かな村づくり計画」を策定し、村民が一丸となって美しい自然を活かした村づくりを推進している。 この一環として、景観形成住民協定を締結し、地域住民が自主的に街路樹の植栽、飾花などを行い、美しい自然に調和した特色あるまちづくりを進めている。 昭和49年に足和田村緑化推進委員会を発足させ、村内の「野鳥の森公園」を中心としてドウダンツツジや広葉樹などの植栽を毎年実施するとともに、その維持管理に尽力している。 平成3年には、村内の小学生で構成する「緑の少年少女隊」を発足させ、「野鳥の森公園」内の食餌木の植栽や餌台・巣箱の設置などの森林愛護活動や鳥獣保護活動に積極的に取り組んでいる。 平成4年には、青木ヶ原樹海に生息する動植物とのふれあい拠点となる「野鳥の森公園」を開園し、年間10万人の来園者に自然とのふれあいの場を提供している。 このように、同村では、次代を担う子供たちを中心に、村内の美しい自然との共生を基本として、将来にわたって良好な環境を保持するため、緑化の推進、森林の保全に向けて全村挙げて取り組んでいる。

[地方公共団体]

名 称	きそむら 木祖村
所 在 地	長野県木曽郡木祖村
代 表 者	村 長 武重 善博
功績の概要	同村は、味噌川ダム建設を契機に森林のもつ公益的機能を積極的に村民に呼びかけ、226haの植林と1,374haの間伐を推進するとともに、平成3年度から2年間、国有林8.6haを70年契約の分収造林として設定する「源流の里森林造り事業」を推進し、水源かん養林の整備に努めた。 平成3年度には、長野営林局の協力の下、木曽ヒノキを中心とした80haの天然林を「水木沢郷土の森」として設定し、後世に残す努力をしている。 また、木曽川の水の恩恵を受ける下流自治体と友好自治体提携を締結し、平成5年度から6か年計画で総面積32haの下流自治体による分収造林を行う契約の仲立ちをするとともに、毎年合同の植樹祭等を開き、交流を図っている。 さらに、平成元年度から味噌川ダムを中心として天然記念物に指定されている木祖村桜の1万本運動を展開し、村民一体となって植付け、施肥及び下草刈りを実施している。

[地方公共団体]

名 称	しろかわちょう 城 川 町
所 在 地	愛媛県東宇和郡城川町
代 表 者	町 長 河野 泰成
功績の概要	同町は、昭和58年から「わがまちは美しく」をスローガンに花のまちづくりを実施し、花を通じた住民参加のまちづくりを官民一体となって展開している。毎年20万本の花の苗を、公共施設や企業・各家庭に無料配布し、花いっぱい運動を行っているほか、地域住民及びボランティアグループなどによる管理の下、国道、県道のグリーンベルトや遊休地を利用し、町内約70か所に公共花壇の整備をするなど、緑化推進に努めている。 また、公園や広場などで、潤いのある生活環境づくりを行っている個人や団体などを顕彰する「花のまちづくりコンクール」を平成6年から実施しており、花を用いた町づくりの推進に役立てている。 さらに、平成7年には、森林、農地の保全に積極的に取り組むため、第3セクターによる林業会社を設立し、人工林等の管理を行っている。 今後も、「全町自然公園化」というテーマの実現のため、「わがまちは美しく」運動をさらに強化していくこととしている。

[地方公共団体]

名 称	せきちょう 関 町
所 在 地	三重県鈴鹿郡関町
代 表 者	町 長 清水 孝哉
功績の概要	同町は、町の85%が山林であることから、森林資源の保護等に力を入れている。 昭和52年から毎年、「町植樹祭」を実施し、約200本の植樹を行い、平成8年で20回目を迎えた。また、東海自然歩道を主とする林道等をコースとし、自然に親しむとともに、自然保護について考えることを目的に「東海自然歩道歩こう会」を実施し、平成8年で17回目を迎えた。 さらに、昭和63年から、町内を花いっぱいにしようと、毎年町内全戸に緑化苗木を配布し、各家庭と自治会の協力の下、花1本から魅力のあるまちづくりを推進している。 このほか、平成5年からは、自然や木に親しんでもらうため、地域の若者グループが中心となって、「もくもくトライあそぼう大会」が開催されている。 今後も、従来から行われてきた緑化施策やイベント等を継続的に行っていくとともに、木や花によるまちづくりをさらに推進していくこととしている。

[地方公共団体]

名 称	みさくぼちょう 水 窪 町
所 在 地	静岡県磐田郡水窪町
代 表 者	町 長 伊藤 英世
功績の概要	同町は、赤石山脈西端の南面に位置し、広大な森林地帯を有しているが、昭和49年に自然保護憲章が制定されたのを機会に、町民が一丸となって美しい自然を生かした町づくり実践活動を推進することとした。 この一環として、自然林、保健保安林の指定、県設鳥獣保護区の設定を行ってたほか、平成2年度には、自然とのふれあいの拠点施設となる「みさくぼ野鳥の森」を整備し、将来の自然保護の担い手である小・中学生を対象とした自然観察会を定期的を開催するとともに、食餌木の植栽により、新しい鳥を誘致する等、多様で質の高い自然環境の創出に励んでいる。 また、平成5年度からのコナラの無償配布による広葉樹林の拡大、平成6年度のブナの原生林を中心とする天然林「山住自然保護林」の整備、平成8年度の「水源の森基金条例」の制定、のほか、平成7年度からは、4か年計画で、町一円を「自然の回廊」と位置付け、人と自然との関わりを体験学習する場と機会を提供するため、「みさくぼフィールドミュージアム整備計画」に着手するなど、豊かな自然を守り、水と緑、鳥等の生態系を育む森づくりや美しい自然を生かした町づくりに積極的に取り組んでいる。

[地方公共団体]

名 称	ものべそん 物部村
所 在 地	高知県香美郡物部村
代 表 者	村 長 宗石 教道
功績の概要	同村では、昭和58年からスギ等の村有林39.18haを対象として、県内外に広くそのオーナーを募集する等都市住民参加による森林づくりに努めている。 また、平成5年の森林火災等を契機として森林の国土保全機能が再認識され、地元村民のみならず、川下住民も森林復旧作業に加わり、緑化活動を通じた地域住民と都市住民の交流が活発化した。 さらに、平成8年度には、上下流域の相互理解等を目的とした「アクア・リプル・ネットワーク構想」を策定するとともに、これに基づく山村と都市との交流事業をスタートさせ、物部川を軸とした流域住民の森林保護意識の醸成に努めている。 一方、平成6年度からは、村出資で基金を設立して、森林整備等を担う若者技術者を養成する「物部グリーンレンジャー」制度をスタートさせている。 このほか、平成2年に同村の全集落と関係35団体からなる「物部村桜ともみじの里づくり協議会」を結成し、現在までに桜とモミジの苗木10,000本を育てて植栽し、その管理はそれぞれの地区が集落行事の一環として行い、地域緑化の推進に努めている。

[地方公共団体]

名 称	やまさきちょう 山 崎 町
所 在 地	兵庫県宍粟郡山崎町
代 表 者	町 長 上木 茂志
功績の概要	同町は、緑の総量確保・水資源の安定確保・水源かん養のため、昭和61年より町有林の皆伐施業を中止し、順次、主伐期に達した町有林の複層林化を進めている。現在までに31haを複層林化しており、今後も同じ方針で毎年5ha程度実施の予定である。 平成3年度には、豊かな森林づくりと緑の大切さを広く提唱するために「悠久の森条例」を制定し、町有林のうち1字分全山80haをそのまま2～300年伐採しない森として定めている。 また、山崎町緑の少年団連絡協議会を設置し、次代を担う子供たちが緑とのふれあいを通じて、心豊かな社会人に成長するよう、学習活動や奉仕活動に対する支援などを実施している。 さらに、県民に豊かな自然とのふれあい・多彩な交流の場を創出するため、平成4年に兵庫県と同町ほか4町等で「県民オアシスーしそう森林王国」を形成している。その拠点エリアでは、同町緑の少年団連絡協議会等とともにサクラの苗木を植栽するなど、緑化を推進している。